

ひとりから

子ども会情報紙『ひとりから』

発行日／2020年7月1日

発 行／真宗大谷派(東本願寺)青少 幼年センター

〒600-8164 京都市下京区應訪町通六条下る上柳町199

TEL : 075-354-3440 FAX : 075-371-6171

E-mail : oyc@higashihonganji.or.jp

浄泉寺花まつり



蓮ちゃん通信 その①

2020年11月21日(土)～28日(土)

**おでらおやつクラブ
in 東本願寺
を開設します!**



みなさまからの「おそなえ」をお預かりし、特定非営利活動法人「おでらおやつクラブ」事務局を通して、子どもたちに「おすそわけ」し、貧困問題への支援を行います。

対象



お米、お菓子、乾麺、レトルトパック、飲み物、缶詰、調味料等の食品類又は洗剤等の生活用品

※食品類については賞味期限が2021年1月以降のものをお願いします。
※お米はなるべく玄米のままでお願いします。

仏様の呼び声

もちづきけいこ
青少 幼年センター長 望月 慶子

『仏説阿弥陀経』には、お淨土に咲く蓮の花について、「青色青光、黃色黃光、赤色赤光、白色白光。微妙香潔。」とあります。

青い花には青い光が、黄色い花には黄色い光が、赤い花には赤い光が、白い花には白い光があり、清らかな香りをあたりに漂わせている、ということです。

花に例えるならば、バラの花はバラとして美しく咲けばいいし、タンポポはタンポポとして美しく咲けばいいのであって、バラの花はタンポポになれないし、なる必要がないわけです。タンポポもバラの花にはなれないし、なる必要がないわけですから、それぞれに色も形もちがうのですからそれぞれに特色があっていいわけで、それぞれが比べることのできない唯一の命を輝かせて生きているということです。

そのことは、それぞれの独自性のすばらしさをたたえ、それぞれが同じでないから素晴らしいと言っているので、それは相手を認めるということですね。私たちはみな、他を自分の色に染めたいと思っているところがあるので、違いを認めるとはとても難しいことです。

仏様は、「誰もが尊い命を生きています。あなたはあなたでなければ出せない個性が光っています。」と呼びかけていらっしゃいます。

お念仏はすべてが平等に間違いなく救われていく教えです。

南無阿弥陀仏の「」

真宗大谷派教学研究所長 楠 信生

三人の盗賊

昔、イングに悪知恵のはたひ／＼三人の盗賊がいました。「盗賊」ところのは泥棒のことですが、三人で大金持つといふに盗みに入りました。そして、たくさんの金銀財宝と食べ物を盗んで山の中に逃げました。何日かあると、食べるものがなくなってしまった。そこで、三人の中の一人が、「誰かが食べ物を町に賣つに行かなればならない」と言って、三人でくじ引きをしました。そしてくじ引きの結果、一人の盗賊が町へひそりと食べ物を賣つに行きました。そのあいだに、残った二人の盗賊が相談しました。「あいつが戻ってきたら、二人あいつを殺せよ。そうしたら一人で自分でできる」と。

しばらくして、買ひ物に行つた盗賊がたくさん食べ物とお酒を買つて帰つてきました。岩陰に隠れていた二人の盗賊は、買ひ物をしてきた盗賊を襲つて殺してしまいました。「それで、一人で山分けする前に、買つてきた酒で祝いの酒を飲むわ」と言って飲み始めました。すると、飲み始めた途端に具合が悪くなつて二人とも死んでしまいました。実は、最初に殺された盗賊は、一人に毒を飲ませて宝物を独り占めしようとしたのです。結局、三人とも死んでしまいました。

姉弟のお話

ある時、私がお参りに行つた時のことで、八歳くらいのお姉ちゃんが五歳くらいの弟の一人が目の前にいましたので、「二人がひいて、ケーキが一個だけあつたひどいする？」と聞いてみました。その時に弟さんが真っ先に言つた「おまえひどい」と

りしました。何て言つたかと云ふと、「僕一人で食べよ」と。おまけに「一人で食べただろうがおいしい」と言つたのです。

おまけに「おまえひどい」と言つた弟には、「もう少し人のことを考えよう。人のひとを孝^{うなが}い」とが本当に自分を大切にかかる」とだよ。それでは、お姉ちゃんはどうだろつか。「分けて食べたほうがおいしい」という優しく気持つ子は、きっとひづれ目に遭つたくない、「そんな人と会つたくな」と思つてしまつます。でも仏さまはこの話を聞くと「悲しき人だ」と感じられるのでしよう。

ある時、私がお参りに行つた時のことで、八歳くらいのお姉ちゃんが五歳くらいの弟の一人が目の前にいましたので、「二人がひいて、ケーキが一個だけあつたひどいする？」と聞いてみました。その時に弟さんが真っ先に言つた「おまえひどい」と

りしました。何て言つたかと云ふと、「僕一人で食べよ」と。おまけに「一人で食べただろうがおいしい」と言つたのです。

子どもたちと聞く法話 [2019年子ども報恩講のつどいより]

おじいさん」と話しかれました。

この話も、お姉ちゃんのほうが素晴らしい子で、弟はちょっと勝手な困った子だな

といつだけのことではあります。仏さまはどのように見ておられるかな？「一人で

食べたほうがおいしい」と言つた弟には、「もう少し人のことを考えよう。人のひと

を孝^{うなが}い」とが本当に自分が大切にかかる

ことだよ。それでは、お姉ちゃんはどうだ

ろつか。「分けて食べたほうがおいしい」と

いう優しく気持つ子は、きっとひづれ

目に遭つたくない、「そんな人と会つたくな

」と思つてしまつます。でも仏さま

はこの話を聞くと「悲しき人だ」と感じら

れるのでしよう。

田や若ひる目にあわなじで済むのだねい

か。ひづれ優しく良し子でも、悲しき人に

あつのではないだろつか。その時には仏さ

まは「自分を見失わないで、自分を大切に

するのだよ」と一緒に悲しみでくださらま

す。ですから、仏さまは、男の子は良くな

い子、女の子は良くな、ただそれだけじゃ

なくて、仏さまは両方を心配して見

て下して下さるまわ。

私たちにはひつじても自分でえよければ

いい、自分が樂しければいい、その人の氣

持ちがはじてます。その時に「南無阿彌

陀仏」と云ふ言葉が、「それでひいのかい？」

それで本当にあなたは満足できるの？」と

問い合わせてくれます。その心を七百五十年

以上前の親鸞聖人が私たちに伝えて下さ

いました。そして今、皆さんのお父さん、

お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんが、

その心を受け止めてほんとうに心で、

ひづれの場が作られて下ます。

おたが縁があれば来年も親鸞聖人のお話

を聞きに、そしてお友達に会つて来て下さ

さい。ありがとうございました。



御影堂でのおつとめ



同朋会館でのおはなし

オノマトペであそぼう!

オノマトペとは、自然の中での音、人の声、物事の動きや様子を音(おん)で表したことばです。

水なら…ぽっちゃん、ぽとぽと、ジャージャーなど
他にも…サッ、ポツン、ムクムク、ホワホワ、ビチャ、シーンなど

たくさんの物事をオノマトペで表すと、表現は無限大!
オノマトペゲームをひとつ紹介します。

1 モノの絵(文字でも可)を描いた紙やカードを数枚用意します。**たとえば**



3 ペアで対面になり、相手に自分の絵(文字)を見てもらってオノマトペで表現してもらいます。



2 自分の絵(文字)がわからないように背中に貼ってもらいます。

せんたくばさみで止める、タックシールに絵を描くなど。



5 数回オノマトペをもらい自分の絵(文字)が何だったかを発表し、正解なら拍手!わからなかつたら、みんなでヒントをだしてもらおう!



4 お互いに一言ずつオノマトペをもらい次のペアになり、くりかえします。



ワンポイントアドバイス

年齢に応じてカードのテーマを決めてやってみても!

- ◎たとえば「自然」なら…
風、空、雲、星、月、土、太陽など
- ◎「動物」なら…
ライオン、ネコ、イヌ、ゾウ、キリン、ヘビなど
- ◎「道具」なら…
えんぴつ、こくばん、ボール、はさみ、なわとびなど

蓮ちゃん通信 その2

子ども会出席カードがダウンロードできます!



東本願寺キャラクターが入った子ども会出席カード。
青少幼年センターHPからダウンロードしてお寺の子ども会でご活用ください。
出席カード用のシールは東本願寺出版で購入できます[1枚100円(税別)]

東本願寺 青少幼年センター

検索



「ひとりから」はじめる仏事

子どもたちに
伝えてみませんか?

大正時代、^{*}本山社会課から『児童と宗教』という児童教化の指導者のための雑誌が発刊されていました。そこには、先輩方が伝えてくださった遺産がたくさん。このコーナーでは、そこに連載されていた「教案」から、私たちの生活の中の仏事に関するものをサガエさんがリライトしてお届けします!!

*本山社会課…社会と寺院をつなぐべく初めて派内に設置された宗務組織。宗派の青少幼年教化を担っていた。

仏像

わたしたちは、み仏さまのお姿として仏像をみることができます。それはみ仏さまのお姿を通して、み仏さまのこころ「仏心」をみることに通じます。み仏さまに手をあわせるときは、落ち着いて手をあわせ、み仏さまのお顔を拝見しましょう。



ボクはこんな風に話してみました



佐賀枝 夏文
(大谷大学名誉教授)

また、阿弥陀さまのお姿をよくみてみましょう。立っていらっしゃいますね。わたしたちは、「ああ疲れた」と座ったり、寝転んだりしますが、阿弥陀さまはいつも、どのようなときにも、わたしたちを見守り、救いの手をさしのべたいとお立ちになっています。

出 典：幡谷淳信「九月教案」布施
『児童と宗教』3巻8号より、一部抜粋、現代語訳
リライト：“サガエさん”こと佐賀枝夏文

みんな、よく知っている「阿弥陀さま」は立っていらっしゃいます。
どうしてだか知っていますか。
そのお姿の意味を知ると、とてもうれしくなるかもしれないね。

コーナーの活用例

- 本文「仏像」をそのまま覚えて話す。
または、ご自身の表現で話す。
- プリントして配布し、朗読する。

上記以外にもその場に合わせてご活用ください!

本文のPDFデータは、青少幼年センターホームページ
「子どもとあそぼう」のコーナーからダウンロードいただけます。

◎「パピコー・ありがとう」三月に卒業した子ども会の六年生から色紙をもらいました。みんなで会うことが難しい状況の中、自分の気持ちを伝えようとしてくれた思いに、心があたたかくなりました。他者に思いを馳せること。忘れずにいたいと思います。

(青少幼年センター主事 高月沙生子)

◎半年前には考えてもみなかつた世界に、子どもも大人も日々苦悩しながら生きている現在。過去を振り返り、未来を想像することで、今のあり方を考える時間が私に与えられています。再び、共に手を合わせ、歌い、遊び、語り合える日が来ることを願い、今号をお届けします。

(編集長 池崎方子)

編
集
後
記



真宗大谷派の青少幼年教化の情報を届けします。

<https://www.facebook.com/oyc.hitorikara/>

*facebookの個人アカウントをお持ちでなくともご覧いただけます。

●真宗大谷派(東本願寺)青少幼年センター TEL.075-354-3440

青少幼年センターホームページ

東本願寺 青少幼年センター

検索

ぜひ、ご覧ください!!